

# 化学療法計画書

ID						指示医師:					
氏名						指導医師:					
生年 月日						投与開始予定日:      年      月      日					
実施部署			発行日			投与終了日:      年      月      日					
身長 (cm)	160	体重 (kg)	50	体表面積 (m <sup>2</sup> )	1.50						

病名	多発性骨髄腫
治療法	ダラキューロ+Ld療法

		1	2	3
抗癌剤・商品名		ダラキューロ配合皮下注	レブラミドカプセル	デカドロン錠
規格		1800mg(ダラツムマブとして) /15mL	5mg	4mg
一般名		ダラツムマブ	レナリドミド	デキサメタゾン
一日投与量(規定)		1800mg/body(ダラツムマブとして)	25mg/day	40mg/day
患者情報から算出した 一日投与量		<b>1800 mg</b>	<b>25mg/day</b>	<b>40mg/day</b>
実際の投与量		<b>1800 mg</b>	<b>25mg/day</b>	<b>40mg/day</b>
投与日	1-2コース目	day1,8,15,22	day1-21	day1,8,15,22
	3-6コース目	day1,15		
	7コース目以降	day1		
1クール期間		28日間		
予定クール数				
検査スケジュール		原則的に投与日に化学療法施行前セット 検査データに応じて随時検査実施		

適応基準	多発性骨髄腫
推奨 経口剤	○このレジメンは最小度催吐性リスク群です。静注、経口問わず制吐剤は不要です。
禁忌	1.本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2.妊婦又は妊娠している可能性のある女性患者 3.適正管理手順を遵守できない患者 4.デスマプレシン酢酸塩水和物(男性における夜間多尿による夜間頻尿)を投与中の患者
中止基準	投与前の好中球数:1000/mm <sup>3</sup> 未満、血小板数:50,000/mm <sup>3</sup> 未満 骨髄機能が回復するまでは投与延期 (CTCAE ver4.0 における Grade3 の血液毒性に準拠)
副作用	<p>●ダラキューロ</p> <p><b>重大</b> 1.Infusion reaction 2.骨髄抑制 3.感染症 4.腫瘍崩壊症候群 5.間質性肺疾患</p> <p><b>その他</b> (5%~10%未満) 上気道感染、貧血、下痢、発熱、疲労、注射部位反応 (5%未満) 気管支炎、尿路感染、インフルエンザ、サイトメガロウイルス感染、白血球減少、食欲減退、低カルシウム血症、浮動性めまい、末梢性感覚ニューロパチー、頭痛、錯感覚、心房細動、高血圧、呼吸困難、咳嗽、悪心、便秘、嘔吐、そう痒症、筋痙攣、関節痛、筋骨格系胸痛、背部痛、悪寒、無力症、注射部位紅斑、末梢性浮腫</p> <p>●レブラミド</p> <p><b>重大</b> 1.深部静脈血栓症、肺塞栓症 2.脳梗塞、一過性脳虚血発作 3.骨髄抑制 4.感染症 5.皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、中毒性表皮壊死症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) 6.腫瘍崩壊症候群 7.間質性肺疾患 8.心筋梗塞、心不全、不整脈 9.末梢神経障害 10.甲状腺機能低下症 11.消化管穿孔 12.起立性低血圧 13.痙攣 14.肝機能障害、黄疸 15.重篤な腎障害</p> <p><b>その他</b> (5%以上) 便秘、発疹、倦怠感、腫瘍フレア (1~5%未満) 下痢、悪心、上気道の炎症、筋痙攣、食欲不振、味覚異常、不眠症、浮動性めまい、そう痒症 発熱、CRP増加、浮腫</p> <p>●デカドロン</p> <p><b>重大</b> 1.誘発感染症、感染症の増悪(頻度不明) 2.続発性副腎皮質機能不全、糖尿病(頻度不明) 3.消化性潰瘍、 消化管穿孔、肺炎(頻度不明) 4.精神変調、うつ状態、痙攣(頻度不明) 5.骨粗鬆症、骨頭無菌性壊死、 ミオパシー、脊椎圧迫骨折、長骨の病的骨折(頻度不明) 6.緑内障、後囊白内障(頻度不明) 7.血栓塞栓症(頻度不明)</p> <p><b>その他</b> (すべて頻度不明) 月経異常、下痢、悪心・嘔吐、胃痛、胸やけ、腹部膨満感、口渇、食欲不振、食欲亢進、 多幸症、不眠、頭痛、めまい、筋肉痛、関節痛、満月様顔貌、野牛肩、窒素負平衡、脂肪肝、浮腫、血圧上昇、 低カリウム性アルカローシス、中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害、眼球突出、白血球増多、ざ瘡、 多毛、脱毛、色素沈着、皮下溢血、紫斑、線条、掻痒、発汗異常、顔面紅斑、紅斑、創傷治癒障害、 皮膚菲薄化・脆弱化、脂肪織炎、発疹、発熱、疲労感、ステロイド腎症、体重増加、 精子数及びその運動性の増減、しゃっくり</p>
備考	○間接クームス試験が偽陽性となることがあるため、投与開始前に不規則抗体スクリーニング検査を施行すること。 →不規則抗体陽性の場合は抗Kell抗体の有無について確認を行うこと。

ダラキューロ+Ld療法 観察記録

所要時間:約5分

氏名: ID( ) 年齢: ( 才)

施行日	クール	回目	施行前内服薬( )	入外( )
医師	<b>指示医師:</b> <b>ダラキューロ ( バイアル )</b> 一般名(ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ)		<b>抗癌剤用量</b> 計画書設定量 計画書設定量より減量 計画書設定量より増量 減量・増量理由	抗がん剤以外の 薬剤の変更・追加
	<input type="checkbox"/> 投与決定 <input type="checkbox"/> 未決定 <input type="checkbox"/> 延期・中止			投与 開始時間
投与指示	デカドロン錠(4mg) 10 錠		ダラキューロ投与30分前に内服	
	カロナール錠(500mg) 1錠			
	ルパフィン錠(10mg) 1錠			
	<b>ダラキューロ配合皮下注</b>		5分かけてゆっくりと皮下注 ※臍から7.5cm離れた腹部に投与 (下図参照)	
投与終了後抜去				